MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

プレスリリース　　2014年6月19日
国境なき医師団（MSF）

イラク：病院が爆撃受け医療活動に支障――医療活動の尊重を求める

イラク北部サラ・フッディーン県の都市ティクリートで 6 月 13 日、爆撃によって国境なき医師団（MSF）の診療所が著しく損壊し、紛争を逃れて避難生活を送る約 4 万人に対する医療援助が阻まれている。MSF は、紛争の全当事者に対し、医療スタッフ・施設を尊重し、民間人を攻撃対象としないよう強く求めている。

イラクにおける MSF 活動責任者、ファビオ・フォルジョーネは「医療スタッフや施設への攻撃により活動に大きな支障をきたしています。我々は患者との接触を断たれ、スタッフと患者は大きな危険にさらされているのです」と訴える。

避難民は数十万人に

暴力の波が日ごとに拡大しているイラクの人道状況は、特に南東部のモスル地域と西部のアンバル県で極めて悪化している。数十万人の避難民が窮地に置かれ、親族を頼ったり、学校やモスク、建設中の建物などに身を寄せている。水や食糧、避難場所、救急医療の不足は深刻で、最低限の援助や医療の提供も、そうした活動自体が攻撃にさらされるような状況下では困難を極めている。

MSF は非常に不安定な治安状況の中、6 月 15 日にはモスル近郊の町バシカで合計 250 世帯に救援物資を配布。またバシカと、モスルとアルビル両市の中間に位置するテス・ハラブでは、避難民を対象に移動診療も行っている。MSF は今後、数千の避難民がいるドホークとモスル間の地域での移動診療を通じて、イラク国内の活動を拡大していく。また、キルクーク県での診療所の開設や、同県内のハウィジャおよびティクリートにおける外科チームの拡充も予定している。安全が確保され次第、特に弱い立場の避難者を対象にした救援物資提供も継続していく。ティクリートで MSF は、アンバル県ファルージャから逃れてきた人びとの援助を今年 4 月に開始、先日も、3000 世帯に衛生キットや毛布などの救援物資を提供している。

進行中の紛争により、イラク国内における人道援助団体の活動は困難な状態に陥ったが、MSF は医療提供を継続している。2006 年以降継続してきたイラクでの活動については、独立性の確保のため、いずれの国の政府、宗教団体、国際機関からも資金提供を受けず、世界中の一般市民からの寄付のみを財源としている。現在イラクで活動する MSF スタッフは 300 人を超える。

以上

本件に関するお問い合わせ先：
特定非営利活動法人　国境なき医師団日本　広報担当：舘　俊平（たち・しゅんぺい）
TEL：03-5286-6141　携帯：090-5759-1983　FAX：03-5286-6124
E-mail: press@tokyo.msf.org　http://www.msf.or.jp